

# 平成26年度 荒浜小学校 共同研究計画

## 1 研究テーマ・サブテーマ

### ふるさと「荒浜」から学ぶ これからの防災

## 2 テーマ設定の理由

### (1) 教育の今日的課題から

平成7年に起きた阪神・淡路大震災の教訓を踏まえて、学校保健安全法に基づき学校安全計画の策定・実施、危険等発生時対処要領の作成、地域の関係機関等との連携など、様々な措置が講じられてきた。そして、平成20年に改訂された学習指導要領において、安全に関する指導の充実が図られてきたところである。

平成23年の東日本大震災を契機として、防災教育等の見直しが進められ、平成24年4月には防災を含む学校における安全に関する取組を総合的かつ効果的に推進するための「学校安全の推進に関する計画」を閣議決定した。

仙台市では、平成24年度に防災教育の基本的な方向を示し、防災教育モデル校を中心に全市的な取組を進めてきた。本校もまた、初年度から3年目の防災教育モデル校である。1年目は防災教育カリキュラムの作成、2年目はその実践と見直しを行い、今年度はこれまでの積み重ねを土台として、地域から学ぶ防災教育に取り組んでいきたい。

### (2) 本校の教育目標から

本校の教育目標は『豊かな心をもち、自ら考え進んで行動する子供の育成』である。昨年度は、進んで自他の「いのち」を守るために行動する子供の育成を目指して防災教育に取り組んできた。今年度は、更に荒浜の地域を意識した防災教育を行い、地域のために自ら進んで行動する子供の育成を図っていきたい。

### (3) 児童の実態とこれまでの取組から

本校の児童23名は、3年前の東日本大震災で津波の被害を受け、ほとんどの児童が家を失い、級友や家族をも失った児童も在籍している。けれども、時間の経過とともに、前回の津波浸水区域に家を建て直し、戻る児童も増えてきた。児童や保護者も、少しずつ落ち着きを取り戻してきたように思われる。

仙台市の防災対応力の構成要素は「知識」「技能」「態度」の三つである。昨年度は、主に「技能」に重点をおき、非常時の心構えや避難の方法など実践的な学習を展開してきた。その結果、授業の中でも児童の実体験をもとにした生きた学びの姿が見られ、自分の「いのち」を守るだけでなく、他者のためにできることについても深く考えることができた。

そこで今年度は、主に「態度」に焦点を当てて、「いのち」を大切にすることはもちろんであるが、「地域と積極的にかかわる態度」などを育てていきたい。「荒浜」という地域で育まれてきた人と人のつながり、自然を生かした土地利用など、この地に育てられた子供たちに伝えていかなければならないことがたくさんある。また、故郷「荒浜」のためにがんばっている人たちの気持ちや復興の様子など、今の「荒浜」の良さにも気付かせながら、防災教育に取り組んでいきたい。自分なりの思いや考えを持ち、自分にできることは何かを考え行動しようとすることで、自己の生き方を考える機会になると思われる。故郷「荒浜」を心に、地域の力になれる子供になってほしいという願いを持って、本主題を設定した。

### 3 教科・領域等

全教育活動を通して指導していく。

ただし今年度の研究授業は以下の時間に行う。

2年 生活科・特別活動

3～6年 総合的な学習の時間

### 4 研究のねらい

荒浜で昔から行われていた災害への備えや、現在も進められている防災への取組や復興の様子を知り、これからの防災について考え実践しようとする児童を育成していく。

学年部のねらい

下学年部

2～4年

身近な人たちの防災や荒浜の復興にかける思いを知り、自分たちにできることを考え実践しようとする児童を育てる。

上学年部

5・6年

防災や復興に携わる人々の思いを知り、実践を通して学んだことを発信しようとする児童を育てる。

### 5 研究の視点

- (1) 児童が取り組む意欲を持てる教材の開発
- (2) 学びを整理し、考えを深めていくことができる単元構想の工夫
- (3) 荒浜小に適した防災教育カリキュラムの改善

視点（1）について

故郷である「荒浜」には昔も今も学ぶべき教材が多数ある。先人の知恵や、これからの防災・復興・地域の人の思いと関わる中で、どの児童も意欲的に取り組むことができる教材を開発していきたい。

視点（2）について

「目指す子供の姿」が達成できるように、年間を通じて見通しを持った計画をする。児童が活動の振り返りをしたり、友達の考えを聞いたりしながら、自ら新たな課題を見つけ追及していくことができるように、単元や1時間ごとの指導計画、授業の展開などを吟味する。

視点（3）について

25年度に作成した学年ごとの防災教育計画、年間指導計画、総合的な学習の計画（2年は生活科・特別活動）を今の児童や地域の実態を考慮して、改善を図りたい。合わせて、「防災教育副読本」の活用の仕方についても見直しをしていきたい。

## 学年部の手立て

### 下学年部

- (1) 児童が取り組む意欲を持てる教材の開発  
荒浜の人やものと関わることで、児童が実践できる題材を考える。
- (2) 学びを整理し、考えを深めていくことができる単元構想の工夫  
年間を通した大きな単元の中で、振り返る場面を設定し、新たな課題に取り組みさせる。
- (3) 荒浜小に適した防災教育カリキュラムの改善  
荒浜の人たちの思いを汲み、取り入れながら、見直しを図る。

### 上学年部

- (1) 児童が取り組む意欲を持てる教材の開発  
共通体験をもとに、人々の良さや工夫に気付くことができる教材を取り上げる。
- (2) 学びを整理し、考えを深めていくことができる単元構想の工夫  
自らの課題を解決し、更なる課題に気付かせるために、計画的に講師を招く。
- (3) 荒浜小に適した防災教育カリキュラムの改善  
児童が経験したことを風紀させないように、一人一人に寄り添ったカリキュラムを工夫する。

## 6 育てたい力・目指す子どもの姿

本研究では、育てたい力を「見いだす力」「みつめる力」「かかわる力」の三つとした。

### 「見いだす力」

総合的な学習の時間において、課題設定が重要な意味を持ち、その後の内容を決定する柱ともいえる。よって、どの児童にも身に付けさせたい大切な力である。

### 「みつめる力」「かかわる力」

私たちは故郷「荒浜」の防災・復興を学ぶことで、自ら考え、実践しようとする児童を育てようとしている。それには、地域の人、復興に関わる人、専門家など、他者とのかかわりを通して学ぶことが中心となる。それは、「自分づくり教育」のねらいそのものと捉えた。

### 参考 「自分づくり教育」の視点

#### 「みつめる力」・・・「自己理解・自己管理能力」

- 自分のよさや他者との違いを理解できる力
- 自分の役割が分かる力
- 忍耐力やストレスをコントロールする力

#### 「かかわる力」・・・「人間関係形成・社会形成能力」

- 他人のよさや個性を理解できる力
- 考えや気持ちを伝え合い協力できる力
- 人や地域を大切にする力

Key word	育てたい力	目指す児童の姿				
		2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
故郷「荒浜」	見いだす力 〔課題設定〕 「荒浜」の昔・今・未来を見つめる中で、自らが取り組むべき課題を見いだす。	与えられた課題に自分なりの疑問や考えを持って、取り組む。	教師の助言を受けながら、疑問に思ったことや、調べてみたいことをもとに課題を設定する。		自分の気づきを大切にしながら、解決すべき問題を吟味して、自ら課題を設定する。	
	みつめる力 〔思い・考え〕 復興に携わる人々の気持ちを汲み取り、防災や復興への思いを高める。	「荒浜」の地域の人や家族の意見を参考にしながら、 <b>安心・安全な生活とは何か</b> を考えることができる。	「七郷カルタ」で取り上げられている場所や人を調べながら、「荒浜」の良さを感じることができる。	住みよい町とはどんな町なのか、いろいろな <b>立場の人達の視点から</b> 、考えることができる。	「あらはまプロジェクト」の人達や「荒浜」の自然と向き合い、 <b>復興に向けて強い気持ちを持つ</b> ことができる。	城下町仙台と会津の町づくりを比較し、 <b>命を守るために強い町づくりの工夫</b> を知り、防災への思いを高める。
	かかわる力 〔行動〕 他者の多様な考えや立場を理解して、自分にできることを実践しようとする。	大人や年上の人の言うことを素直に聞き、 <b>安心できる生活や安全な行動</b> をとろうとする。	「荒浜」の人達との <b>関わりの中</b> で分かったことを基にして、協力して「荒浜カルタ」の制作をする。	あらゆる人にとって <b>居心地の良い公園とは何か</b> を考え、「荒浜」に作り <b>たい公園を</b> 模型等で表すことができる。	自ら育てた作物を収穫し販売する過程で学んだことを生かして、 <b>自分のできることは何か</b> を考え、主体的に行動しようとする。	「荒浜」の堤防や貞山掘などの整備が進む様子から、 <b>自身の在り方や夢や目標</b> についてまとめ、卒業式につなげる。

\*太字は、仙台市「杜の都の学校教育」防災対応力の構成要素とのかかわりを表す。

## 7 研究の方法

### (1) 授業研究

- ・指導案は、簡潔に書く。
  - \*形式は最後のページ参照
- ・学年部（下学年・上学年）を母体とした研究。
  - ねらいの設定や、カリキュラムの見直し、ねらいの具現化のための手だてを話し合い、実践する。
  - \*この場合の下学年は2～4年、上学年は5・6年とする。
- ・全員授業を行う。
  - 事前検討会は学年部ごとに、事後検討会は全職員で行う。
  - 昨年同様、7年部の先生方の授業提供もお願いする。ただし、教科は限定しない。検討会は持たず、参加者のアンケート提出を原則とする。
- ・事後検討会の持ち方は、協議・助言型（従来型）とする。

## (2) 文献研修

- ・ 職員一人一人が、よい文献の発掘に当たり紹介し合う。
- ・ 授業等で使いやすいソフトなど情報を提供し合う。
- ・ 日々変化している復興関連のニュースを敏感に察知し、必要な情報は共通理解する。

## (3) 職員研修

### ① 防災・復興研修

#### ○職員間で検討すること

- ・ 昨年度作成した学年ごとの「防災教育計画」「年間指導計画」「総合的な学習の計画（2年は生活科・特別活動）」の見直し。
- ・ 防災教育副読本の活用法の検証。

#### ○できれば、専門家から研修を受けたいこと

- ・ 新しい堤防や貞山掘などの構造 → 国土交通省、設計士など
- ・ 自然災害の専門的知識。 → 応用地質（株）など

#### ○日々移り変わる「荒浜」の復興の様子を、見学したり写真で見たりして、研修する。

### ② その他の研修

- ・ 同僚性が高まり、指導力につながるような研修を随時行いたい。
- ・ 教育実習生対象の提供授業も、職員が互いに参観し学び合いたい。
- ・ 全職員が参加することは日程的にも難しいので、希望者のみの研修も行う。

希望 ・ 図工，体育，音楽，理科の実技研修

・ 算数教材作り

・ 楽しいクッキング（うどん，そばなど）

・ 軽めのスポーツ（バドミントン，ソフトバレー，ヨガなど）

・ パソコン研修（エクセル，ジャストスマイル）

#### 昨年度度実施した研修

4月 食物アレルギー研修（東宮城野小と合同）

5月 救急救命法研修（東宮城野小と合同）

6月 防災ワークショップ

7月 心のケア研修

夏休み 算数教具作り・うどん作り・エクセル研修・道徳研修・防災カリキュラム作り

## 8 研究の進め方

### (1) 実態把握

- ・ 学校・学年独自のアンケートや仙台市教育委員会の「心と体の健康調査」を参考にする。
- ・ 日頃から、担任だけではなく全職員で子供の様子に注意を払い、変化に気付く。
- ・ カウンセラーの白石先生に気付いたことを報告してもらい、すぐに対処したい。
- ・ 保護者や地域の人などの声に幅広く耳を傾ける。

### (2) 子供たちの心のケア

- ・ 研究計画を進める上で、子どもの気持ちに配慮し、場合によっては方向を転換していくこともあり得る。家族構成，ストレスの度合い，健康状態，精神状態に常に配慮していきたい。

### (3) 東宮城野小学校との連携

- ・互いに指導案を配布し合い、参観可能な場合には授業を見合い、指導力の充実を図る。  
(同学年の授業はなるべく見合いたい。事後検討会は実施しないこともある。)
- ・昨年度まで行ってきた合同の奉仕的行事、安全的行事や交流学习、児童会主催の「東荒まつり」やたてわり遊びに加えてたてわり遠足にも参加して、子供同士のかかわりを深める。
- ・教員同士の交流の機会も設定する。(主に学年や校務分掌ごとの打ち合わせ)
- ・両校にとって必要な研修は合同で行い、効率化を図る。

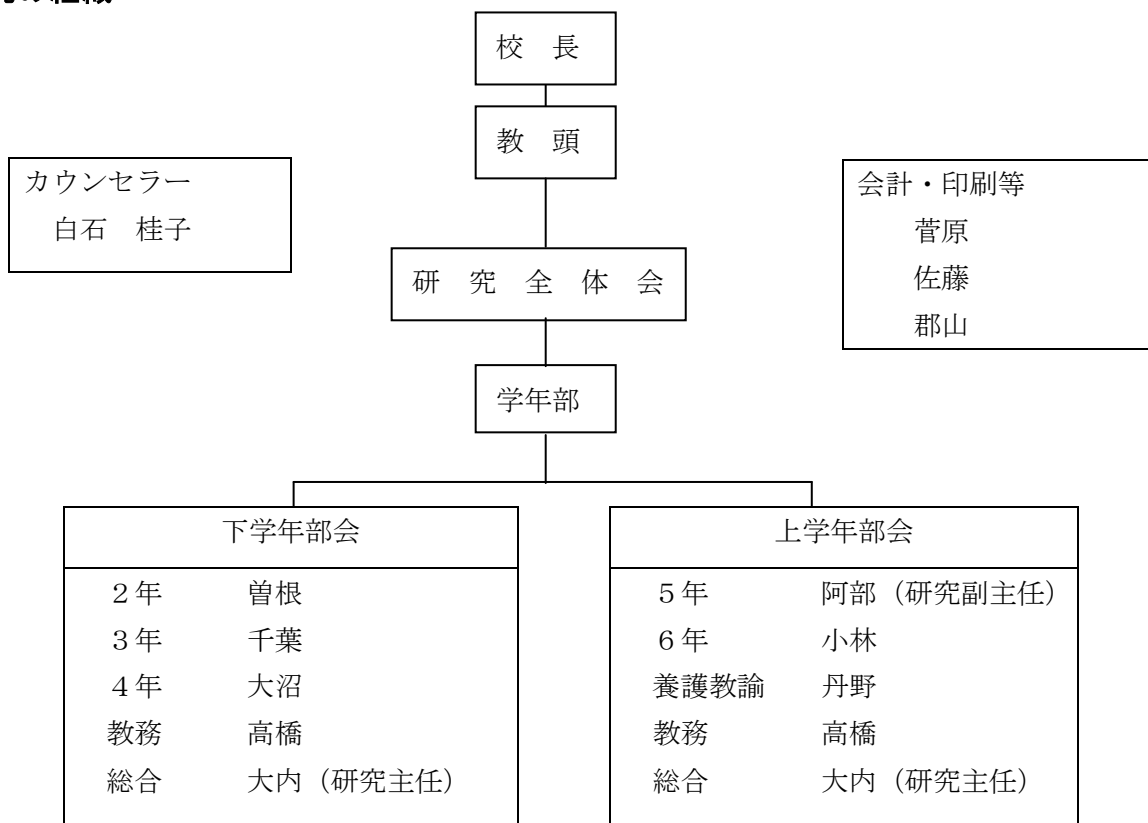
### (4) まとめ方

- ・ 研究紀要は、ファイル式にする。
- ・ 学年部ごとに、年度末に研究の成果と課題を話し合っけてまとめる。それをもとに第2回研究全体会を開き、今年度のまとめと来年度のテーマ等を決定する。
- ・ 指導案を印刷して、全職員に配布する。(15部)  
東宮城野小学校職員分も印刷・配布する。(15部)
- \* 来年度の転入職員、教育センター保管用(10部)  
(座席表など個人情報が含まれていないもの)

### (5) 啓発活動

- ・ 児童や教員が常に研究を意識して生活できるように、key word「故郷荒浜」を教室や職員室に掲示する。
- ・ 保護者には、本校の研究の在り方や成果などを、「ホームページ」や「学校便り」を通して伝える。

## 9 研究の組織



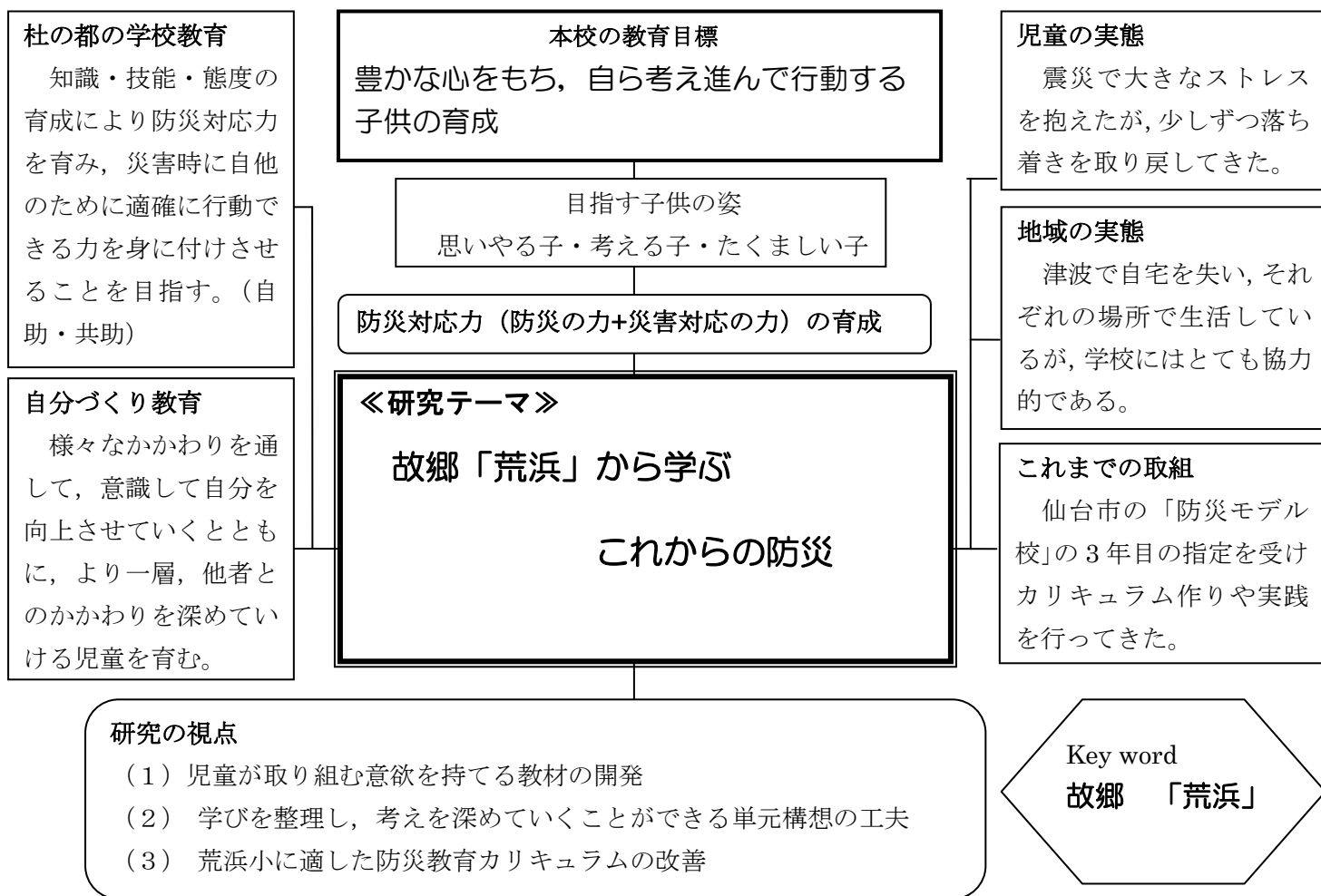
※必要に応じて、学年部を超えて協力して取組む。(指導案検討、研究授業の役割分担など。)

## 10 研究の計画

(合同とは、東宮城野小学校との合同研修会を指す。)

月	研究関係	主な行事など	研究授業等	職員研修
4		始業式 学習状況調査		希望調査(研修・図書) ブログ作成研修会
5	23日 研究全体会Ⅰ(テーマ・領域・ねらい・視点等) 学年部ごとの話し合い(ねらい・手立て)→決定	野外活動(4・5年) 体力テスト 運動会	学校独自のアンケート?	救命救急法研修会 (合同) 児童理解研修会(職員会議の都度)
6	学年ごとの計画・実践	修学旅行(6年)		
7		東荒まつり 個別面談		教育課程研究協議会 (教育センター) 防災教育カリキュラム作りなど夏休み研修
8				教育課程伝講会 (合同)
9		陸上記録会		
10		終業式・始業式 授業参観 遠足 学芸会	「心と体の健康調査」	
11		就学時検診 全市一斉復興プロジェクト		
12	研究アンケート実施	土曜参観		教育課題研究発表会 (教育センター)
1	研究アンケート提出・まとめ 学年部ごとの話し合い(今年度の成果と課題)		小学生防災教育発表会 10~12日? 5年 神戸市	
2	研究全体会Ⅱ ・今年度の研究の成果と課題 ・次年度の研究の概要	感謝の会 授業参観	感謝の会の2部として 「全校防災発表会」を開き、保護者にも声掛けする。 リハーサルは東宮城野小に見てもらおう。	
3	カリキュラムの見直し	6年生を送る会 復興イベント 卒業式・修了式		

# 1 1 研究全体構想図



育てたい力	目指す児童の姿				
	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
<b>見いだす力</b> 〔課題設定〕 「荒浜」の昔・今・未来を見つめる中で、自らが取り組むべき課題を見いだす。	自分なりの疑問や考えを持って、取り組む。	教師の助言を受けながら、疑問に思ったことや、調べてみたいことをもとに課題を設定する。		自分の気づきを大切にしながら、解決すべき問題を吟味して、自ら課題を設定する。	
<b>みつめる力</b> 〔思い・考え〕 復興に携わる人々の気持ちを汲み取り、防災や復興への思いを高める。	安心・安全な生活とは何かを考えることができる。	「荒浜」の良さを感じることができる。	住みよい町とはどんな町なのか、考えることができる。	復興に向けて強い気持ちを持つことができる。	強い町づくりの工夫を知り、防災への思いを高める。
<b>かかわる力</b> 〔行動〕 他者の多様な考えや立場を理解して、自分にできることを実践しようとする。	安心できる生活や安全な行動をとろうとする。	昔や今の荒浜を題材にして協力して「荒浜カルタ」の制作をする。	「荒浜」に作りたい居心地の良い公園を模型等で表すことができる。	自分にできることは何かを考え、主体的に行動しようとする。	自分自身の在り方や夢や目標についてまとめ、卒業式につなげる。



## 指導案の書き方

第○学年 特別活動学習指導案または生活科指導案（2年）

総合的な学習の時間指導案（3～6年）

日時 平成○年○月○日（○）

指導者 仙台市立荒浜小学校

教諭 ○○ ○○

場所 ○年○組 教室

### 1 単元名

### 2 単元の目標

### 3 指導に当たって（簡潔に）

指導者がどのように教材を理解し、児童の実態を踏まえてどのような提案をしていくか参観者のガイドを示します。

### 4 指導計画

段階	活動名	主な学習内容	育てたい力
第○次 ○時間			(みつめる力)
			(かかわる力)

### 5 本時の学習指導

(1) 本時のねらい

(2) 指導過程

過程	主な学習活動	主な指導・支援（視点）

(3) 評価

(簡潔に)